

いのちは誰のものか？

日豊教区 勝福寺坊守

藤谷 純子



さる12月10日、日豊教区勝福寺坊守の藤谷純子氏を講師に迎えて暁天講座が開催された。

「新生」を求めて

ある時、「あなたは自分を持って余しているんだね」「あなたは、私は、これは、これまでの人生に汚う思うとか、私が、私を感じ、もう一度まっとう言ってるけど、ます私さらな新生への渴望を抱があつてと思つていておりました。茨城県そんな私なんてないんで金沢で新たな生活を始めたもの、自分の殻を破れずに、孤独のさびしさや、無気力なげださ、満ち足りない日々の空しさに包まれて生きています。

自我が照らし出されてお浄土が開かれてきた

「私、生きたいんです！」と口をついて出た言葉を打ち消すように、「そのたいが生きさせない！」と答えた。新しい生活への期待をもつての試みが、これで終わったと思いましたが、しかし先生の方から電話を下さって、大谷専修学院を勧め下さったので、私はどこにも行くところがないというだけで、専修学院へ行くことにしました。

念仏の人に会う。学院に入ったものの、南無阿彌陀仏が言えない、手も合わさらない、なにになぜ私がこの場に

お念仏勧める大悲にあう。このか、違和感に苦しみました。レポート面接の時に、信國先生は、あなたとはほんとに自閉的なんだな。あなたの問題を一挙に解決してくれるような、人に遇つて下さいね」と言われました。

新しい生活を求めて一人さまよ彷徨ってきた私に、お念仏申すことから新しい道が与えられたのでした。

浄土は命の大地。これは、もう50年も昔の話です。多くの有縁の先生方や人々から教えをいただいた、今日までできました。

お念仏申す生活から私に領かれてきたことは、「無我」ということ、そして「浄土」ということです。

自我がなくなつて無我になる、ということでは決してありません。無我なる光によつて、どこどこまでも我愛我執の生き様が照らされつつも、そ

「私、生きたいんです！」と口をついて出た言葉を打ち消すように、「そのたいが生きさせない！」と答えた。新しい生活への期待をもつての試みが、これで終わったと思いましたが、しかし先生の方から電話を下さって、大谷専修学院を勧め下さったので、私はどこにも行くところがないというだけで、専修学院へ行くことにしました。

南御堂の掲示板

跂つ者は立たず 跨ぐ者は行かず

新年を迎えると、幼い頃の「書き初め」を思い出す。随分と大きな目標を、書にし、三日坊主で終わっては、よく両親に怒られたものだ。三つ子の魂百まで、とはよく言ったもので、当時と変わらぬ背伸びをした目標を掲げる自分に嫌気がさす。

よしも自分が大事。こんな傲慢な自我を中心にしているために人間関係がたも持てず、バラバラになつてしましました。互いの違いにいらだつて、共に煩惱具足の凡夫であるという共通点が見えなくなつてい

今月の暁天講座。日時10日(木)朝7時から8時30分まで(無料朝食接待あり)講師難波別院輪番 宮浦一郎 講題「今を大切に生きる」(コメント:誰も代わることのできない人生、一回限りの人生。そこに生きる意味をみる。)



講演の最後には受講者ととも唱歌が合唱された



新興記者 ストーンくんが 行く！



ビルの中の間屋さん「神宗」大阪の有名な佃着屋さんといえはここだよ！そう、「神宗」さんを紹介するよ。本店は、難波別院から徒歩15分のところにあるんだ。互